

待つことは長いものですが、過ぎていく歳月の速さに驚かされております。

豊かな君津の山野は若葉から濃い緑に彩りを変えて風にゆれて光っています。

この季節はつい先年、木更津市に天皇・皇后が行幸された第54回全国植樹祭へ参加させていただきましたことを思い出します。

5月半ばでしたが、当日は小雨が降る肌寒い日でした。末席に立つ私達にとって長いセレモニーは耐えがたい寒さと、時間の長さを感じておりました。やがてセレモニーが終わり、植樹会場へと案内されました。

すでに予定地にはそれぞれ穴が掘られ、苗木も添えられてありました。私達はその苗木を一本ずつ持つと、穴の中にまっすぐに立て、与えられた大きな竹ベラでまわりの土をかき集めては穴へ埋め靴底で踏み込んでまた土をかき集め、両足でしっかりと踏み固めて活着する様にと苗木を植え込みました。

私は自分の持分をすばやく終えましたので、天皇、皇后がお手植えされる場所へと近づいてみました。

皇后は男女の高校生に介添えされながら一本の苗木を植えるところでした。皇后は苗木を両手で受け取ると、腰を折り、濡れた地面に両膝を着いて?!（私の位置からは両膝を着いて見えました）そして白い手袋をはずして素手で土をかき集めては、苗木の根本へうずめ、両手でしっかりと押さえ込んでいました。

何度も何度も繰り返してされておりました。私はそのお姿、立居振舞をみて今まで受けたことのない衝撃を受けました。胸が熱くなり、しばらくは凝然と立ち尽くして拝見いたしておりました。

国家の象徴としての品格を感じると共に、一本の木を育てるのに、ここまで心を使われるのか…とうめく思いでした。日頃、私は家も会社も地域社会を育てることは人を育てることであると常に努めてきたのですが、皇后のこのお姿を見て、遠く及ばないものを知りました。

この光景は、私の生涯に忘れえぬものとなりました。

藤原正彦のベストセラー『国家の品格』の中心に『人の品格とは情緒を持つことが大切だ。情緒とは…どんな親に育てられたか?どのような先生、友達に出会ったか?どのような本を読み、詩歌に涙を流したか…が合わさって人の情緒は生まれる』と説いており、すばらしい人物はいずれも美しい山河、田園の中で生まれている。明治維新以後日本を訪れた欧米人は「日本の国はすべてが公園の様だ。日本の道は夢の国のようだ」と誉めているが、『その日本は今市場原理によってすっかり国も人心もあって国家の品格を失ってしまった』と嘆いております。

私達の君津市は首都圏で最も秀でた美しい山河があり、田園が残っていることを誇りに思い、人も心も大切に育てて行きたいものです。